

HPV ワクチン接種後の諸症状と、それらの接種との因果関係判定の実態  
—「痙攣」「記憶障害」「疼痛」について、厚生労働省公表の「症例一覧」表のまとめからの考察

臨床・社会薬学研究所 片平洸彦 榎 宏朗

【目的】HPV ワクチン接種後に起きた「副反応疑い」症例については、「予防接種法」に基づき、その概要が医療機関及び製造販売業者から厚生労働省宛に送付され、厚生労働省はその記載に基づき、個別症例一覧表及び報告の概況をまとめて「厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応部会」に報告するとともに、HPにて公表している。本研究は、この資料に基づき、HPV ワクチン接種後の諸症状のうち、特に社会的に注目されている「痙攣」「記憶障害」「疼痛」関連症状の記載症例について、とりわけ「因果関係（報告医評価）」欄の記載に注目し、ワクチン接種とその後生じた上記3症状との因果関係を接種医がどう判断して報告したか、その実態を解明することを目的とした。

【方法】上記の厚生労働省公表資料のうち、2013年5月16日～2019年11月22日に開催された厚生労働省の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会配布資料（第1回～15回までは「子宮頸がん予防ワクチン」、その後は「HPV ワクチン」と記載）に記載されていた症例一覧表のうち、「副反応名」に「痙攣」「記憶障害」「疼痛」及びこれらの関連病名が記載されている症例を対象に、それら症例におけるワクチン接種とその後生じた症状との「因果関係（報告医評価）」欄の記載を参照し、接種時期別・重篤・非重篤別に集計し、その結果を考察した。

【結果】3症状の何れにおいても、「関連あり」との判断が過半数を超え（50.9～61.8%）2番目に多かったのは「評価不能」（32.9～33.9%）で、「関連なし」との判断は合計で僅か3件に過ぎなかった。即ち、「HPV ワクチン接種とこれら諸症状との因果関係は『関連あり』と判断した医師が過半数を占め、『関連なし』との判断を記載した医師は極めて少数であった」ということが言える。

【考察・結論】以上の結果を踏まえ、これら3症状についての米国VAERS DATAとWHOのVigiAccessによる報告状況と対比し考察した。日本国内では未だにHPV ワクチン接種とその後生じた諸症状との関連を疑う議論が出されているが、前記の結果は、「日本において『副反応疑い症例』を報告した医師の過半数は、接種とこれら3症状発症との間に『因果関係有り』と判断して報告しており、『関連無し』と判断しその旨記載した医師は極めて少数であった」とまとめることが出来る。